

町長日誌 No.161



町長日誌の第 161 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

3月12日AM11:30

「日本晴れ」と言う言葉がぴったりの様に、穏やかで素晴らしい青空が広がる日曜日です。先程、葬儀が終わり町長室で日誌を書いています。

昨日 3月 11 日はマグニチュード 9 という恐ろしい数字の大地震・大津波が三陸海岸などを襲った東日本大震災の発生した日で、もう 6 年の歳月が経過してしまいました。午後 2 時 46 分、忘れもしない時間です。

町長室は 2 階にあるため地震の揺れをすぐ感じます。しかし、あの日は何時もの揺れと違いました。「グニグニ」と言う言葉がぴったりするような揺れで、私が目眩を起こしたのか？ と勘違いしたほどでした。

直ぐに役場の地震警報が鳴りテレビのスイッチを押した瞬間、正に悪魔の手が伸びてくるように真っ黒な津波が海岸線の街から田畑を覆い尽くす様を見た時、非常に不謹慎な事ですが、「この町の町長でなくて良かった！」と後悔してしまいました。私は町長ですから、災害発生時には対策本部長に就任します。この本部長はある意味強い権力を持ちますし、責任も重いのです。何故なら、相談している暇が無い位の即断即決が求められる場面が多いのです。つまり、「大変だ！」とか「どうしよう？」とか思う暇はなく、次々に対策を打たなければならない、いわゆる「命令」する立場になるのです。

災害発生時に本部長の頭の中に、発生した地域の鳥瞰図が浮かばない様では即決の指示は出来ませんし、避難場所・避難所・食糧・水・暖房・etc…の確保などを短時間で考えなければならないのです。水が引いた後の後始末、被災後の生活などは災害発生後の数時間の判断で大きく変わることや被災された岩手県大槌町の町長さんから伺いました。海水や土砂や瓦礫は人が力を合わせれば何とか片づけることが出来ます。

しかし、放射能はいけません。いくら屋根を洗っても庭や畑の土を剥ぎ取っても、一雨降れば、雪が融ければ町の面積の 8 割以上を占める山林から流れ出る水や降る雨で田畑の放射線量を増やすのです。国は私たちが普段生活するなかで浴びる放射線量を一日 1 mmシーベルト以下と定めています。今避難解除されようとしている檜葉町などでは 20 mmシーベルト以下で解除されようとしています。

檜葉町で酪農家であり区長を務めている方が「東京の人間の安全が 1 ミリ以下なのに、なんで我々は 20 ミリで安心だと言うんだ！ 差別でないか！」とマスコミに訴えていました。「取り返しのつかないこと」福島原発の事故は、正に人の手で自然を破壊してしまった「人災」だったので

す。
昨夜のテレビで様々な 3・11 の報道がなされていましたが、避難先で差別を受け、子供の甲状腺障害に気を病む母親、原発離婚と言う言葉まで生まれていることに対して政府は何も出来ず、除去した汚染土・汚染水も野積みのみである現実に憤りを感じた一日でありました。

3月1日(水)

北見市で、管内活性化期成会の会議があり出席しました。この会議は JR 問題についての緊急協議をするもので、出席した JR 北海道の常務から石北線と釧網線の現在の経営状況と今後維持のために必要な費用などについて説明がありました。

JR 北海道の経営内容が非常に厳しいことはすでに誰もが知るところですが、石北線で年間 16 億円の収入に対し 3.2 倍の 52 億円の経費が掛かっています。釧網線では 3 億 5 千万円の収入に対し 20 億円の経費ですから 5.6 倍となっているのです。この数字を信じれば民間企業としては維持困難な経営と言えます。

また、荒川副知事も出席され北海道も先頭に立って国に働きかけるとワーキングチームの答申内容について説明がありましたが、疑問が一つあります。それは、この答申で出された将来の北海道のあるべき姿は 2030 年です。13 年後の姿です。しかし、JR の経営は今どうするか？ という話です。この点で議論が噛み合わないのです。

また、市町村側にしても「こんなに乗客がいるのに何故？」と言えるほど住民の利用が多くないことが弱点です。財政負担もしたくないのが本音ですから、言うことは「国の責任と公共交通機関としての JR の責任追及」となってしまう。この点は北海道も同じで、新幹線の負担だけでも大変なのにこれ以上の財政負担は困る、「国の責任だ！」の一点張りですから、解決方法が全く見えない議論を新年度も続けなければならないのです。

3月 1 日高校、15 日中学校、21・22 日が小学校と卒業の季節です。役場でも 6 名の退職者がおり、学校や官公庁、企業においても退職や異動の季節です。それぞれ別れがあり、また 4 月から新しい人生が始まります。樹木が年輪を刻むように、私たちの一生も辛かったり楽しかったりして年輪が刻まれていく様な気がします。お疲れ様でした！そして、また頑張りましょう！では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

